

「仲間と共に、納得ゆくまでやりぬく子」

～ 家庭・地域と連携した健康づくり・安心安全づくりを通して ～

岐阜県山県市立高富小学校

1 学校紹介

本校の校区は山県市の最南部に位置し、古くから岐阜市に通じる交通の要所として、また旧山県郡の経済や文化の中心として発展してきた地域である。地域の人々の教育に対する関心は高く、各家庭のみならず青少年育成市民会議や各自治会等を中心に、学校教育活動、子ども会育成会活動、PTA活動などへの協力的な姿勢がうかがわれる。

学校は明治6年に開校し、平成16年に現在の新校舎が建築された。児童数は372名(平成27年度5月現在)である。

学校教育目標は「仲間と共に、納得のいくまでやりぬく子」。これを核に、「考える子」「高め合う子」「きたえる子」をめざす姿として、心身ともに健康で明るい児童の育成に努めている。

また近年は、学校と家庭、地域が連携した安全教育の推進にも力をいれ、平成26年度は岐阜県教育委員会による学校安全優良校の表彰も受けた。



2 学校経営方針と健康教育

学校経営における健康教育推進の27年度の具体的な柱は次のようである。

- 外遊びの奨励と体力づくりの実践
- 歯と口の健康の推進
- 自助と共助の視点による非常災害時の安全教育の実践
- 登下校時における安全教育の実践

中でも本校は、長年、継続的な歯の検診・ブラッシング指導等に取り組んできたことにより歯と口の健康に関する児童や家庭の意識は高く、それが健康教育の核となっている。児童会の合言葉「た・い・よ・う・さ」にも「さわやか歯みがき」として位置付いている。



「さわやか歯みがき」は児童会の合言葉



3. 具体的な取組

〈歯と口の健康の推進〉

(1) 学校生活において

① 毎日の歯みがき指導

まず何よりも、日常の歯みがきの指導を大切にしている。給食後は、学級の児童が一斉に教室で歯みがきを行う時間として位置付け、歯みがきの仕方の掲示、手鏡、水道などの環境を整えることも大切に、定着を図っている。



「1本1本、毎日ていねいに磨くよ。」

② 児童会を生かした主体的な取組

歯みがきを児童の主体的な取組にしていくことを目指している。例えば、給食

後の歯みがきは、児童会の健康委員が各学級に行き、実施をリードする。また健康委員会主催で、歯みがきの後に染め出しをして、委員会の児童が「歯みがきチャンピオン」を判定する「歯みがきコンテスト」を年間2回実施している。他にも、低学年

加する機会として、「金ぴかウィーク」という取組を継続的に行っている。歯みがきだけでなく、基本的な生活習慣の定着を目指し7つの目当てを決め、取組をカードにチェックしながら家庭と学校で見届けることで、児童の望ましい生活習慣について考えたり定着を図ったりしている。

③ 啓発活動

「ほけんだより」を年間継続して発行している。また夏休みには、児童と保護者による「歯と口の標語」づくりをPTA活動として行っている。

その他にも、年に1回給食試食会を行い、保護者に実際に「かみかみメニュー」を味わってもらう、引き続き栄養教諭の講話により、歯によい食材や献立について保護者が学ぶ機会とするなどの啓発活動を行っている。

(3) 関係機関との連携

① 行政との連携

山口市では平成16年より保育園、小中学校でのフッ化物洗口を行っている。本校でも、毎週水曜日朝に、希望者（全校児童が希望）に対しフッ化物洗口を実施している。

またブラッシング指導も全学年計画的に実施している。その際には各学級ごとに3～4人の歯科衛生士を山口市より派遣していただき、指導の充実を図っている。

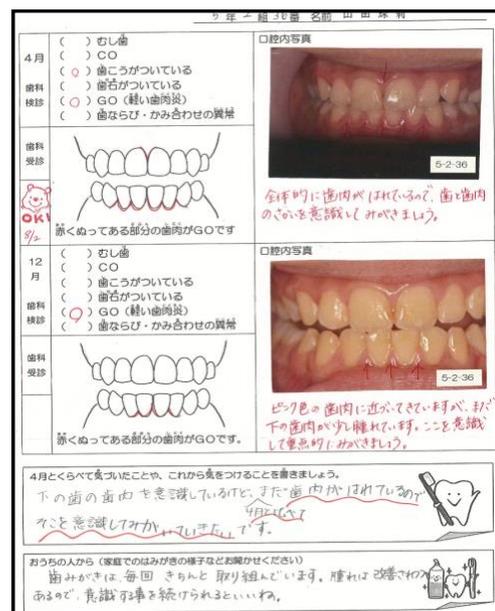


歯科衛生士によるブラッシング指導

② 医療との連携

「歯と口の健康ノート」を山口市歯科医師会からいただき、児童の歯科衛生の足跡として、活用している。これは中学校まで持ち上がる。また学校歯科医の協力により、要観察歯や未処置歯のある児童に対し、秋に2回目の歯科検診を行っている。口腔内写真を撮影し個人カルテを作成し、経過の把握や、児童が自ら、自分の歯みがきの仕方の改善に活かすことができるようにしている。

学校保健安全委員会は年間3回開催し、各種検診の結果や保健活動について報告し、成果と課題について協議したり、指導を受けたりしている。指導いただいたことは、学校だ



歯と口の健康を守る「個人カルテ」

よりや保健だよりに掲載して発行し、自治会に回覧するなどして、地域ぐるみで児童の健康安全や教育活動に関心をもってもらうようにしている。

<自助と共助の視点による非常災害時等の安全教育・登下校時の安全教育>

(1) 平生往生

落ち着いた暮らしができることが、なにより児童の安全の基盤だと考える。「生活の中で確認すること」を学校生活での約束として明文化し、全職員で大切にし、児童の発達の段階に応じ、丁寧に確実に指導するようになっている。

また27年度は特に、登下校時の安全に目を向け、定期的に通学班の反省会をもち登下校時の様子を児童相互で振り返らせたり、指導の機会としたりして、実践を重ねている。

(2) 命を守る訓練

命を守る訓練を年間6回実施している。地震・火災を想定し教室や教室以外の場所からの避難、授業の時間外の避難などを組み合わせている。交通安全教室、不審者対応・連れ去り防止訓練、引渡し訓練なども行っている。

また本校には、肢体不自由の児童が1名在籍している。緊急時の避難の仕方をはじめとして、その児童の校舎内外での安全を、様々な場面を想定して、保護者や複数の職員の視点、児童の目線で考えることを大切にしてきた。このことが安全管理・安全指導の質の向上にもつながっている。このような機会は、学校だよりや学校HPにも掲載し、保護者や地域に伝えている。



火災を想定した「命を守る訓練」(4月)



定期的に行う登下校の様子の振り返り

(3) 保護者や地域との連携

P T A ・自治会などが協力した通学路・地域の危険箇所点検を行っている。学校・保護者・地域合同の地区懇談会で、地域の危険箇所を毎年見直し、わが子と地域の子に教えることを大切にしている。

また横断歩道など通学時に気を付けなければならない場所に保護者が毎朝立ち、児

童の登下校時の安全を守る「旗当番」や、地域ボランティアが児童の安全を見守る「見守り隊」の活動も盛んである。

なお本校は「通学路安全点検フォローアップモデル事業」(H25、26年度)に指定され、通学路合同安全点検を行い、それを受けて通学路の改修や「ゾーン30」の設置なども進んだ。



「見守り隊」の皆さんに感謝の気持ちを伝える

4. 成果と課題

(1) 成果

児童一人一人の健康課題を個の課題とするのではなく、校内の体制を整え、学校と家庭、地域との連携により、社会全体で子供の健康安全づくりに取り組んだことが成果である。

- ・平成27年度6月の歯科検診では全校児童あわせて未処置歯が1本、要観察歯(CO)数が26本と、大変少ない。
- ・歯みがきの習慣、正しい歯みがきの仕方がよく身に付いている。自分の歯・口腔の健康に対する関心や実践意欲も高い。また保護者にもそれが言える。例えば、虫歯治療のためではなく、定期点検として歯医者へいく家庭が多いことも、本校の特徴である。
- ・校内および登下校時の大きな事故や怪我がない。

(2) 課題

家庭の意識が児童の姿に最も影響する。連携の難しい家庭を社会全体でどう引き付け、実践に巻き込んでいくかが課題である。

- ・歯肉に炎症が見られる児童が減らないため、歯肉炎かどうかを自分で判断できる知識、予防するブラッシングの技術の向上が必要である。
- ・児童や保護者の関心の高い歯みがきを切り口に、基本的な生活習慣の定着を進めているが、まだ十分ではない。生活習慣がもとで、体調不良を訴えて保健室に来る子もいる。自分の生活のめあてを意識して、粘り強く取り組む力を育てていきたい。「金ぴかウィーク」の取組の時期や方法の見直しのみならず、より多方面、多様な方法を工夫していきたい。
- ・自治体や地域と連携した一層の防災教育の推進が課題である。